

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)



4月号 発行 平成24年4月27日

東日本大震災関連



「いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果」 について

福島県が行ったいわき地方の3月の農林畜産物のモニタリング調査結果をお知らせします。

調査した16品目49検体のうち、13品目44検体は検出限界値以下でした。(表1、表2)また、検出があった品目、検体においても100Bq/kgを大きく下回っています。

このうち野菜ときのこについては、12品目中10品目で放射性物質は検出限界値以下となり検出されず、畜産物も4品目中3品目で検出がありませんでした。4月から新しい基準値となりましたが、4月に入り「たけのこ」から基準を超える放射性物質が確認され出荷制限がかかりました。4月10日(火)現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、栽培きのこの原木なめこ(露地栽培)、野生きのこのこ、ユズ、たけのこ、加工品では乾シイタケとなっています。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、結果を確認のうえ、是非いわき市産の農林畜産物をご賞味ください。

(表1) 農林畜産物の調査結果(3月)

放射性物質が検出されなかった品目と検体数	放射性物質が検出された品目と検体数		計
	規制値内で検出された品目と検体数	暫定規制値を超過した品目と検体数	
13品目 44検体	3品目 5検体	0	16品目 49検体

暫定規制値(放射性セシウム)500Bq/kg

(表2) 1点も放射性物質が検出されなかった品目

ナバナ	ミツバ(施設)	豚肉
トマト(施設)	シュンギク(施設)	鶏卵
ブロッコリー	ネギ	原乳
イチゴ(施設)	アスパラガス(施設)	
コマツナ(施設)	菌床ナメコ(施設)	



農業高校生による 元気づくりプロジェクト 第2弾 東北・九州の連携による、 仮設住宅への小さな農園 づくりへの取組み

3月26日(月)、熊本県立八代農業高校生3名と引率の教諭および磐城農業高校生4名がいわき農林事務所に来所し、いわき市の農業復興の取り組み状況を学習していきました。八代農業高校では、昨年夏の宮城県内の農業高校との交流後、福島県内の震災・原発事故後の農業の復興状況に関心が集まってきたそうです。

高校生はいわき農林事務所の職員から、いわき市内の津波被害に対する除塩対策や東京電力福島第一原発事故に伴う土壌の汚染状況、農産物からの放射性物質検出状況や作物への吸収抑制対策技術への取り組み状況等を聞き、新たに災害の実情を確認するとともに、九州では報道されにくい復興への取り組みに関心を寄せていました。地元に戻ってからは、いわき市の被災及び復興の状況を報告したいと意欲的でした。

また、八代農業高校生は、これまで学んできた園芸技術を活用し、復興に向けて歩き出す地域の方の生き甲斐づくりを手伝うために、磐城農業高校生とともに、いわき市内の応急仮設住宅を訪問し、農園づくりを通して被災者の皆さんを励ましていきました。



(八代農業高校から贈られた寄せ書き)



双葉町応急仮設住宅内 直売所「ふたばふれあい 処」がオープンしました！

多くの双葉町民が避難生活を送るいわき市の南台応急仮設住宅地域内に3月27日（火）、仮設店舗「ふたばふれあい処（どこ）」が開店しました。

この店は東日本大震災及び原子力災害に伴い設置された仮設住宅地域内において、新たなコミュニティーを活用して避難者自らが農産物や加工品等を生産・販売し、あわせて避難者の利便性の向上や雇用の確保を図るため設置されました。「福島県きずなづくり直売所支援モデル事業」を活用し、有限会社マルマサ食品（双葉町）が運営するものです。

当日は、開店に当たりオープニングセレモニーが行われました。まず、運営する有限会社マルマサ食品の松本正道代表取締役が「この場所が『小さな双葉町』といわれるようたくさんの人たちのために頑張りたい。」とあいさつし、続いて、来賓や関係者がテープカットを行いました。

農産物や鮮魚など品揃え豊富な店は、開店直後から多くの買い物客で賑わい、応急仮設住宅の住民が店の開店を待ちわびていた様子がうかがわれました。

来店した住民の1人は「仮設住宅から近くの店までは結構距離があるので、敷地内に店ができて本当に便利。心の支えになるので、店を応援したい。」と明るい表情で話していました。



（テープカットの様子）



直売所マップが 完成しました！

応急仮設住宅向けの直売所マップが完成しました。これは、応急仮設住宅にお住まいの方々が周辺の農産物直売所でいわき市産農産物の購入をする際の利便が図られるよう作成したものです。

直売所マップには、所在地や電話番号、営業時間のほかに、主な取り扱いの商品、それぞれの直売所ならではの押しポイントが記載してあります。外観の写真もついていますので、一目でよくわかるようになっています。また、応急仮設住宅付近のスーパーマーケットやコンビニエンスストアもあわせて記載してあります。

マップは3月末につくられ、4月中に、特定非営利活動法人いわきNPOセンターを通じて各応急仮設住宅内の集会所、28か所を対象として配布しました。ぜひ多くの方々に活用していただきたいと思います。



（直売所マップの一部）



災害復旧に係る 他県派遣職員着任

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故に伴い、被災3県を除く44都道府県と岡山県倉敷、福岡、長崎3市から本県に派遣された職員の合同着任式が4月5日（木）、福島市で行われました。派遣職員207人に本県復興へ支援して頂くこととなり、佐藤雄平知事から「手伝ってもらった成果で、必ずよみがえった福島県をつく

る覚悟。福島再生へ一緒に頑張っていこう。」と訓示があり、派遣職員代表が「明るい未来に向け、県民の皆さんに桜満開の笑顔が咲くよう精いっぱい職務に励む。」と決意を表明しました。

このうちいわき農林事務所森林林業部には、群馬県、愛媛県、大分県から3名の職員が1年間派遣されることとなりました。

3名は、被災した治山施設や崩壊した山腹の復旧工事を中心に担当することとなり、今後本格化する震災からの復旧・復興に向けて、職員とともに取り組んでゆくこととなりました。



(合同着任式の様子)

一般情報



整備された区画で2年ぶりの作付けへ

経営体育成基盤整備事業大久地区は県営のほ場整備事業として平成20年度から工事に着手し、国道6号バイパスの掘削残土を活用しながら平成23年度までに約75haの区画整理を行いました。残工事は約4haの区画整理と道路や水路の附帯工事のみとなっています。

平成23年は東京電力福島第一原発事故の影響で本地区全域が一時屋内退避区域に指定され、作付けを断念する不幸に見舞われました。それでも事業の推進に対する地元の熱意は変わることがなく、日渡川(ひわたしがわ)沿いの狭い地形条件を克服するため現地で何度も打ち合わせを重ね、屋

内退避区域指定解除後には川上地区の区画整理約3haを実施し、無事3月に竣工しました。

この間2月には、完成した75ha全域で、地元の方々といわき農林事務所農業振興普及部、農村整備部が協同して土壌中の放射線量測定を行い、作付けに支障がないことが確認できました。

今年は農作業が再開され、青々とした緑から黄金色に移りゆく震災前の風景が戻ってくることを期待されます。



(大久地区)



第17回全国環境保全型農業コンクールで「JAいわき市梨部会」が受賞

3月23日(金)、仙台市で開催された第17回全国環境保全型農業コンクールにおいて、JAいわき市農業協同組合梨部会(会長 比佐照雄氏)が奨励賞(全国環境保全型農業推進会議会長賞)を見事受賞しました。

JAいわき市梨部会では部会一丸となって、殺虫剤の使用回数を削減した防除体系を実施するため、シンクイムシやハマキムシ類を対象に、全ての梨園で交信攪乱剤を導入してきました。さらに、多目的防災網の導入や生物農薬の導入、定期的に害虫の発生消長を確認し防除適期の判定を行うなど、環境にやさしい梨作りを実践しています。平成18年には、部会員全員がエコファーマーの認定を受けるなどの取り組みが評価され、この度の受賞となりました。表彰状は小川町にある共選場に掲示されており、部会員の誇りとなっています。

また、上記の取り組みのほかに、基礎GAP（農業生産工程管理）のチェック項目に、いち早く放射性物質対策を組み入れ、放射性物質による果実への汚染を防止する取り組みを強化し、より安全・安心な梨生産をめざしています。いわき市内で初となるGAP項目への取り組みは、他の生産部会に波及し、多くの部会が実践を開始しています。

これからも、いわき市の農業振興の牽引役として期待される梨部会です。



森林保全巡視員委嘱状 交付式を実施

4月3日（火）、森林保全巡視員委嘱状交付式が県いわき合同庁舎4階大会議室において行われ、農林事務所長より新任2名を含む9名の方に委嘱状が交付されました。

森林保全巡視員は、主に保安林や県行造林地を対象に巡視を行い、ハイキングや山菜採りで山に入っている人に対しての山火事防止やゴミの持ち帰りの指導、災害や病虫害の発見等、良好な森林環境の維持を図るため、年間を通じてパトロール活動を行います。



（森林保全巡視員委嘱状交付式の様子）



いわき地方防霜対策本部を 設置しました

4月9日（月）に「平成24年度いわき地方防霜対策会議」を県いわき合同庁舎で開催しました。

本会議は、国や県、市の行政機関、JA等の関係機関が連携していわき地方における農作物の凍霜害を未然に防止し、農業経営の安定を図ること目的としています。会議終了後、「いわき地方防霜対策本部」をいわき農林事務所農業振興普及部に設置しました。今年度の設置期間は、4月9日から5月31日までの予定となっています。

特に、今年は大陸からの乾燥した移動性高気圧が頻繁に日本に流れ込み、遅霜が発生しやすくなっています。注意報が毎日のように発令されており、例年以上に注意が必要です。技術対策に関連して、防霜対策のべたがけ資材を使用する際には放射性物質に対処するため、昨年の震災時に使用または屋外で保管していた資材を使用しないよう生産者へ向け注意喚起することを確認しました。



（いわき地方防霜対策本部の看板を設置する様子）



田人直売所野菜作り講習会 の開催

4月10日（火）、田人地区協議会による「田人地区直売所野菜作り講習会」が貝泊公民館で開催され、多くの生産者が参加しました。

講習会では、いわき農林事務所農業振興普及部による「野菜作りのポイントと放射性物質対策について」に関する発表が行われ、肥料中に含まれる放射性セシウムが400Bq/kg未満の安全・安心な堆肥の使用の推奨や、東京電力福島第一原発事故当時に使用していた農業用被覆資材の使用を控えること、ゼオライト・カリウムの適正施用について呼びかけました。

参加者の間では、放射性物質吸収抑制対策に高い関心が集まり、活発な質疑応答が行われました。

いわき市産の野菜は、現在モニタリング調査が実施されており、安全性が確認されています。しかし、生産の現場からも放射性物質吸収抑制対策をしていくことで、より安全・安心な農産物を消費者の皆様にご提供することができます。

ぜひ、いわき市産の野菜を手にとりてご賞味ください。



(貝泊公民館での講習会の様子)

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new.fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1)モニタリング情報検索
 - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>
E- Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp

